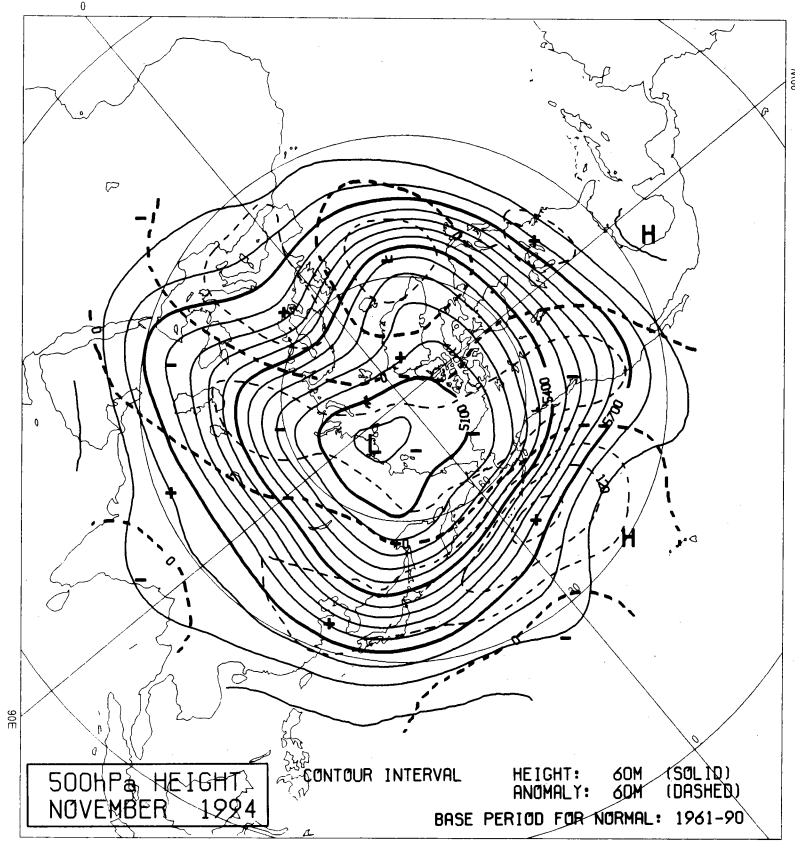


## 1994年11月の大気大循環と世界の天候 月平均 500 hPa 天気図



(破線は平年からの偏差. 単位m)

表 1 1994年11月の気候表

地点名	気温 °C	偏差 °C	DT/SD	降水量 mm	比率 %	降水 階級	地点名	気温 °C	偏差 °C	DT/SD	降水量 mm	比率 %	降水 階級
パリ	11.2	4.5	3.5	46	82	2	カサブランカ	16.9	1.0	0.8	28	39	2
ベルリン	—	—	—	—	—	—	ニオロドサヘル	27.1	0.1	0.1	0	0	1
ローマ	—	—	—	—	—	—	プレトリア	21.1	0.3	0.3	82	81	3
イスタンブール	10.1	-1.8	-0.9	96	108	4	バンクーバー	—	—	—	—	—	—
モスクワ	-2.5	-1.1	-0.5	66	116	—	ニューオリンズ	18.5	2.3	1.1	35	29	1
オデッサ	4.5	-1.3	-0.7	28	67	3	セントルイス	11.2	3.7	2.2	125	150	5
ニューデリー	20.1	-0.5	-0.6	0	0	4	サンフランシスコ	9.9	-2.7	-2.7	146	207	5
カルカッタ	24.8	0.1	0.1	6	26	3	ニューヨーク	11.0	2.4	1.6	91	94	3
ボンベイ	29.0	1.0	1.4	0	0	2	マナウス	—	—	—	—	—	—
ホンコン	22.7	1.3	1.3	1	3	1	サンパウロ	—	—	—	—	—	—
チャンチュン	-0.3	3.4	1.5	13	129	4	ロサリオ	—	—	—	52	54	2
ベキン	6.4	2.1	1.5	13	210	5	ホノルル	27.1	2.0	2.5	5	7	1
シャンハイ	15.5	—	—	24	—	2	タヒチ	26.3	0.3	0.8	192	119	4
バンコク	—	—	—	—	—	—	ダーウィン	29.5	0.1	0.2	66	50	1
マニラ	26.9	0.0	0.0	—	—	—	キャンベラ	16.8	1.1	0.9	34	53	3

## 11月の世界の天候

11月の北半球 500 hPa 高度天気図では、極付近に負偏差域が見られた。大西洋は負偏差であったが、ヨーロッパにはブロッキング高気圧がみられ正偏差となった。ヨーロッパロシアから中東にかけては極付近から伸びる負偏差域に覆われたが、ユーラシア大陸東部から太平洋にかけては正偏差となり、特に太平洋には強い正偏差の中心があった。また、北米大陸北西部は負偏差、南東部は正偏差となり、逆 PNA パターンとなった。極域の負偏差は今月で6か月連続となった。

### ①中国南東部からミクロネシアにかけての少雨

中国南東部、フィリピン北部およびミクロネシアの島々は少雨になった。月降水量は、香港で1 mm (平年値は35.1 mm)、グアム島 (平年値は225.2 mm) やウェーク島 (平年値は67.7 mm) では0 mm だった。

### ②中央アジアから日本にかけての高温

高温域の中心は中央アジアからモンゴルにかけてで、中国のウルムチの月平均気温は3.3°C (+6.0°C) だった。

### ③パキスタンの高温

パキスタンやインド西部は高温で、月平均気温が4°C 以上高いところがあった。

### ④ヨーロッパからアフリカ北部にかけての高温

ヨーロッパからアフリカ北部にかけての広い範囲で

高温が顕著だった。月平均気温はパリで11.2°C (+4.5°C)、ロンドンでは10.6°C (+3.9°C) で、イギリスでは過去50年間で最も暖かい11月と伝えられた。

### ⑤ザンビアの高温

アフリカ南部は高温傾向で、ザンビアでは月平均気温が平年より3°C 前後高かった。

### ⑥アメリカ合衆国中西部の多雨

### ⑦アメリカ合衆国西部の低温

合衆国は中西部を中心に多雨で、月降水量はオクラホマシティーで145 mm (289%) だった。西部では低温が顕著で、サンフランシスコの月平均気温は9.9°C (-2.7°C)。

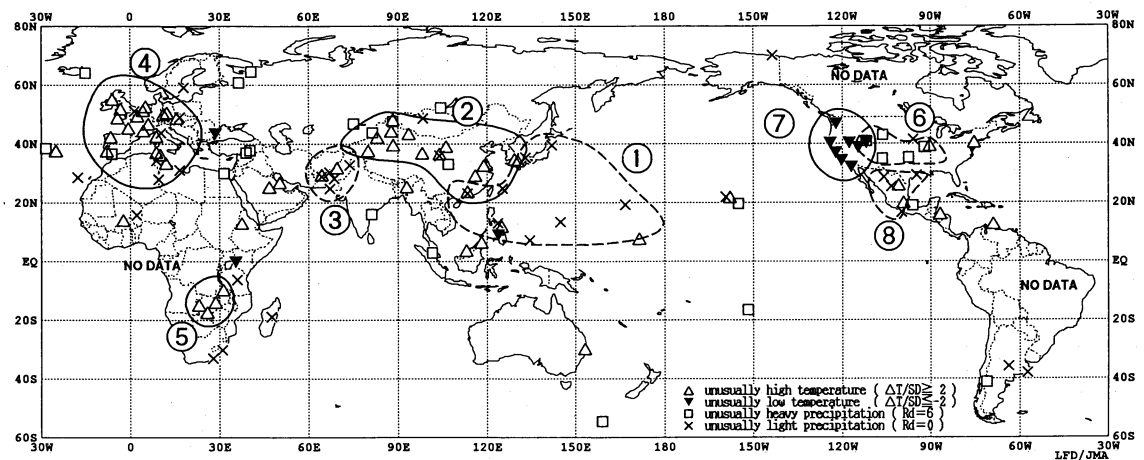
### ⑧メキシコの少雨

メキシコの内陸部では雨がほとんど降らなかった。

### ⑨その他

中旬に、カリブ海で今年最も強いハリケーンがハイチを襲い800人以上の犠牲者がでた。また、ヨーロッパは少雨傾向だったが、上旬にイタリア北部では低気圧により今世紀最大規模といわれる豪雨に見舞われた。大雨や洪水による被害は、死者63人、行方不明20人、被害総額の概算は3600億円にのぼった。

(気象庁予報部長期予報課 小林ちあき)



1994年11月の世界の異常天候分布図

図中の番号は、本文中の番号と対応している。

△：高温 ▼：低温

□：多雨 ×：少雨

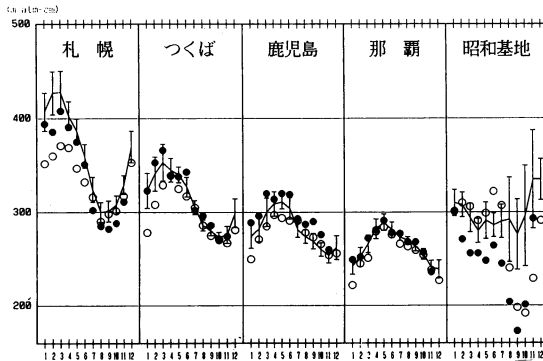
1994年11月の気候表の説明。平均値は、1961～1990年のデータに基づくもの。降水階級は五分位値で、0は最小値より小さい場合、6は最大値より大きい場合。500 hPa 高度場の平均値は1961～1990年の30年平均値。

# オゾン層の状況 (1994年11月)

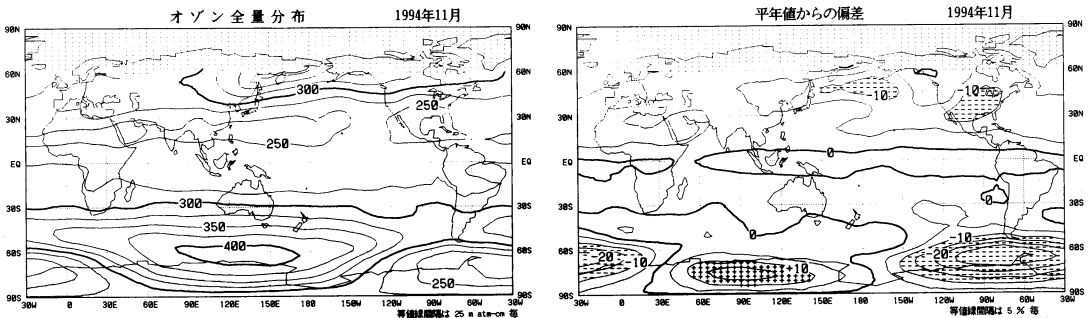
国内4地点(札幌、つくば、鹿児島及び那覇)及び南極昭和基地における月平均オゾン全量の推移を、第1図に示す。1994年5～11月における各地点の状況は、札幌では5月と6月は平常並みであったが、7月以降は平常より少なかった。つくばでは6月、8月及び9月は平常より多かったが、その他の月は平常並みであった。鹿児島では、5月～10月は平常より多かったが11月には平常並みとなった。那覇では7月と9月に平常より多かったがその他の月は平常並みであった。昭和基地では10月まで平常より少なかったが11月は平常並みとなった。

また、米国航空宇宙局 (NASA) 提供のデータ (TOMS) をドブソンオゾン分光光度計による観測値と比較検討の上作成したオゾン全量及び15年平均値 (1979～1993年) との偏差 (%) の全球分布図を第2図に示す。これによると、太平洋北部、北アメリカ大陸、及び大西洋の南から東太平洋の南にかけての南極海とその沿岸部に平常比偏差が10%以上の負偏差領域が見られるが、これは11月下旬に消滅したオゾンホールの影響である。また、平常比偏差が10%以上の正偏差領域がインド洋の南側の南極大陸で見られる。

(気象庁観測部高層課オゾン層解析室 上窪哲郎)



第1図 オゾン全量の月平均値と月別累年平均値  
国内4地点(札幌、つくば、鹿児島及び那覇)及び南極昭和基地におけるオゾン全量の月平均値を示す。黒丸印は1994年の月平均値(暫定値)、白丸印は1993年の月平均値、実線は月別累年平均値(1961～1990年、ただし、那覇は1974～1990年)、縦線はその標準偏差。



第2図 TOMS による1994年11月におけるオゾン全量及び平常比偏差の全球分布図  
平常比偏差は1979～1993年の月別累年平均値からの偏差の百分率。米国航空宇宙局 (NASA) のデータ (TOMS) を、気象庁がドブソンオゾン分光光度計による観測値と比較検討の上作成した。